



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

むらバス運行までの軌跡



地域公共交通人材育成研修

2022.9.1

今日 お話すること

1. 赤井川村と自分のことの紹介
2. 赤井川村における路線バスの歴史
3. 地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！
4. 地域公共交通計画策定の取組
5. むらバス運行に向けて

赤井川村の概況



人口1038人（2022.6.30現在）
カルデラ盆地の中に人口の約7割が居住



○面積 280.09 km²

○人口密度 3.71人／km²

○高齢化率 33.4%

○基幹産業 農業・観光業（キロロリゾート）

○病院 1（村立診療所）

○学校 小学校2校、中学校1校
（スクールバス1台）

○商店 セイコーマート1軒、たばこ屋1軒

○生活圏 余市町・小樽市

○幹線道路 国道393号 小樽市～赤井川村～倶知安町
道道余市赤井川線 赤井川村～余市町
道道仁木赤井川線 仁木町（銀山）～赤井川村

赤井川村の概況



○交通資源 (2019.12.1～2022.3.31)

- 北海道中央バス「赤井川」線
4便(8往復)・・・月～土
日曜・祝祭日運休
- 赤井川ハイヤー 車両1台
- スクールバス 車両1台
(赤井川ハイヤー受託)
- 日、祝日代替交通 市町村運営有償運送
4便(8往復)・・・日曜日、祝祭日運行
(赤井川ハイヤー受託)
- キロロリゾート送迎バス(冬期のみ)
小樽～キロロ間、札幌キロロ間
* ツアーバス
- キロロ従業員送迎バス
本村～キロロ間(2019年度のみ)

赤井川村における路線バスの歴史

- 1933年（昭和8年） 赤井川村、余市町、銀山間 バス運行開始
（余市赤井川自動車合資会社）
- 1943年（昭和18年） 北海道中央乗合自動車に合併
（現在の北海道中央バス）
赤井川営業所設置
- 1948年（昭和23年） 余市町へ営業所が移転
- 1963年（昭和38年）12月 冬期間のバス運行開始
- 1991年（平成3年）12月 キロロリゾートまで延伸
- 1997年（平成9年）12月 キロロリゾート延伸終了
- 2019年（令和元年）12月 日・祝全便運休
赤井川村が代替交通運行（地域公共交通バス）
- 2020年（令和2年）11月 バス路線の存廃協議の申し入れ
- 2022年（令和4年）3月31日 中央バス赤井川廃止
- 2022年（令和4年）4月1日 むらバス運行



赤井川、余市間バス運行 赤井川停留所前 昭和38年12月
赤井川～余市間は冬期間運賃が倍されて運行。昭和38年12月から冬期間
がとおこなわれ村民待望の冬期バス運行が始められた。
写真はバス利用する村民。左から沢井健司、沢井敏郎、横野ツヤ子

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



赤井川村史より①

冬期間の村の外部との交通の確保は村民の切実な願いであった。・・・待望のバスの運行はもちろん・・・文字通り陸の孤島からの脱却であった。

赤井川村史より②

・・・戦争で物資が不足するようになり、乗合自動車もガソリンから木炭ガスに変わるが走り続けた・・・

赤井川村における路線バスの歴史



聞き書き集から・・・

○余市まで馬車で4時間くらい。バスも走っていた。あの当時、バスの運転手さんって言ったら、赤井川の中でみたら、今の飛行機のパイロット以上の位置だった。とにかく頼りになる人。その人に頼んだら余市まで行ける。そんな感じでした。

<話し手> 昭和16年生まれ 女性

聞き書き集から・・・

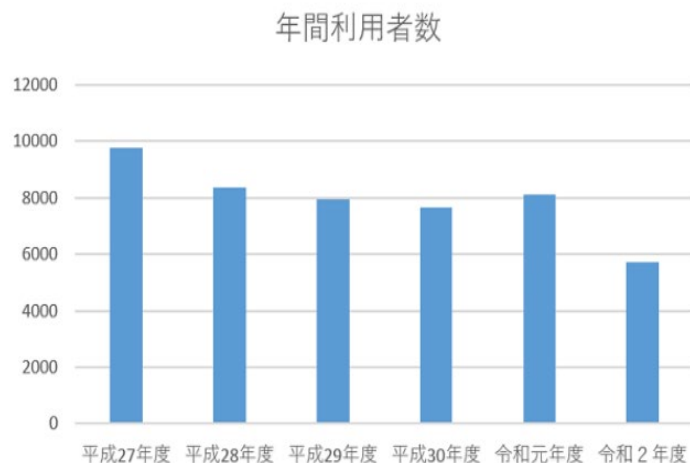
○高校は、余市。バスで通ってたな。そういえば、初めて親無しでバスに乗って余市へ行ったのは中2のとき。
はじめての高校バス通学も緊張したわ。

<話し手> 昭和58年生まれ 男性

赤井川村開村120年記念
聞き書き集
令和2年3月発行：赤井川村

地域の課題 村内唯一の公共交通がなくなる！

バス利用状況の推移



平成27年度（2015年度） 約10,000人の利用
平均：27人／日



平成28年度（2016年度） バス利用促進の実施
①通学定期券への助成 ②バス利用者負担の軽減策



平成29年度（2017年度） 約8,000人の利用
平均：22人／日



令和2年度（2020年度） 約6,000人の利用
平均：16人／日

2019年～

・中央バスとの協議スタート

2019年～

・札幌運輸支局へ駆け込む！
・地域公共交通人材育成研修
＋国交省研修会へ参加！

地域の課題 村内唯一の公共交通がなくなる！

2019. 1月 地域公共交通活性化協議会設立を意思決定
＊路線バス廃止前提ではなく、効率的な公共交通体制を模索
2019. 8月 令和元年12月ダイヤ改正で“土日祝”の全休方針が提示される
2019. 10月 中央バス小樽－キロロ線、札幌－キロロ線廃止決定⇒村同意
＊乗務員不足により運行継続は難しい
第1回地域公共交通活性化協議会開催
中央バスとの協議により“土曜日全休は回避”
2019. 12月 日・祝路線バス運休代替交通の開始
＊スクールバス活用による市町村運営有償運送（交通空白地）
キロロリゾート従業員送迎バスの住民混乗試験実施⇒スキー場へ無料で行ける！
……新型コロナウイルス感染症……
2020. 7月 地域公共交通計画策定に着手
日祝代替交通の貨客混載実証実験を実施⇒利用実績なし
2020. 11月 赤井川線存廃協議の申し入れに対して意思決定
2020. 12月 地域活性化協議会にて路線廃止（2022.3月）協議がされ、反対意見なし。

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

これまでの地域公共交通の担当業務は、

年に1度の運行補助金（1000万円～1200万円）の手続きのみ

この時期を境に、

持続可能な公共交通体制構築がミッションとなる

この仕事を契機に、

地域公共交通確保は、自分ごと(当事者)へ

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

経験則からお伝えしたい4箇条

これから、当事者となる皆さんへ

1. 今すぐ、北海道運輸局（各運輸支局）へ
駆け込むべし！
－ 地域の実情＋地域交通資源＋運送ルール（法）－

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

経験則からお伝えしたい4箇条

これから、当事者となる皆さんへ

2. 何を言うかより、誰が言うか！

－ 専門家・外部のリソースを最大限活用 －

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

経験則からのお伝えしたい4箇条

これから、当事者となる皆さんへ

3. 言葉の定義の明確化！

- 「地域公共交通」という言葉は、
人それぞれの暮らしによって捉え方が違う —

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

経験則からお伝えしたい4箇条

これから、当事者となる皆さんへ

4. 意識して、自ら公共交通を利用する！

－現場感と現場勘－

地域公共交通計画策定の取組

地域公共交通計画の策定 2020. 7～

バス利用者の声を聞く

Step 1 アンケート調査

バス利用者（年1～2回から毎日）は、村の人口の10％程度

- ①バス利用者（学生～高齢者） 132名へアンケート調査
- ②未来の高校生保護者 46名へアンケート調査

Step 2 公共交通懇談会

地区ごとに分けて3回実施の対話の場 36名の参加

- ・普段の利用状況、公共交通のお困りごと、公共交通に望むこと
- ・外部人材による運営

地域公共交通計画策定の取組

地域公共交通計画の策定 2020. 7～

専門家の話を聞く

Step 3 地域公共交通シンポジウム

専門家の知見と道内外の事例を知る
40人の参加＝興味がある

- ・バス停まで歩くことも負担ですよ
- ・バス無償化は持続しませんよ
- ・バス、福祉移送サービス、
タクシーには、それぞれの役割と
対価がありますよ



バス利用者の声を聞く

<浮き彫りになったこと>

- ・路線バスとJR余市駅との接続の悪さ
- ・志望校へ行けないという事態は避けて欲しい
- ・午前中に余市町までを往復できる運行が望ましい
- ・現状の公共交通では、免許返納が難しく将来への不安が大きい
- ・余市、小樽へのアクセス利便性が高まれば、定住、移住促進へ
- ・全ての移動ニーズを満たすのは、困難
- ・なるべく多くの人が利用できる公共交通の在り方を検討して欲しい。
- ・公共交通の懇談の場には、送迎が必要じゃないか！

実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

実証運行の方向性

地域が自らデザインする公共交通（暮らしやすさ）

昨年度実施した各種のバス利用調査から、高校通学や買い物、通院等の利便性向上を図る運行ルートを地域でデザインし、「暮らしやすさ」による定住促進効果を図る。

【バス利用調査・意見交換会から】

- ・バス利用は通学、通院、買い物が中心
- ・通学先は小樽市内が多数
- ・通院は、小樽4割、余市6割



利便性向上

地域内交通資源のフル活用（しごとの創出）

村内唯一のタクシー事業者である「赤井川ハイヤー」と国内有数のリゾート「キロロリゾート」との連携体制により、公共交通を確保する仕組みづくり



地域経済の循環



地域公共交通計画策定の取組

実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

2020年度調査を踏まえた実証運行の実施

地域が自らデザインする公共交通

2020年度実施した各種のバス利用調査、住民懇談会、村政懇談会から、高校通学や買い物、通院等の利便性向上を図る運行ルートを地域でデザイン



地域公共交通計画策定の取組

実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

2020年度調査を踏まえた実証運行の実施

地域（村内）の交通資源のフル活用＝地域（村内）資源の組み合わせ
新しい価値を創造

村内企業



【キロロリゾートバス車両】
リゾートバス乗務員

連 携

村内企業

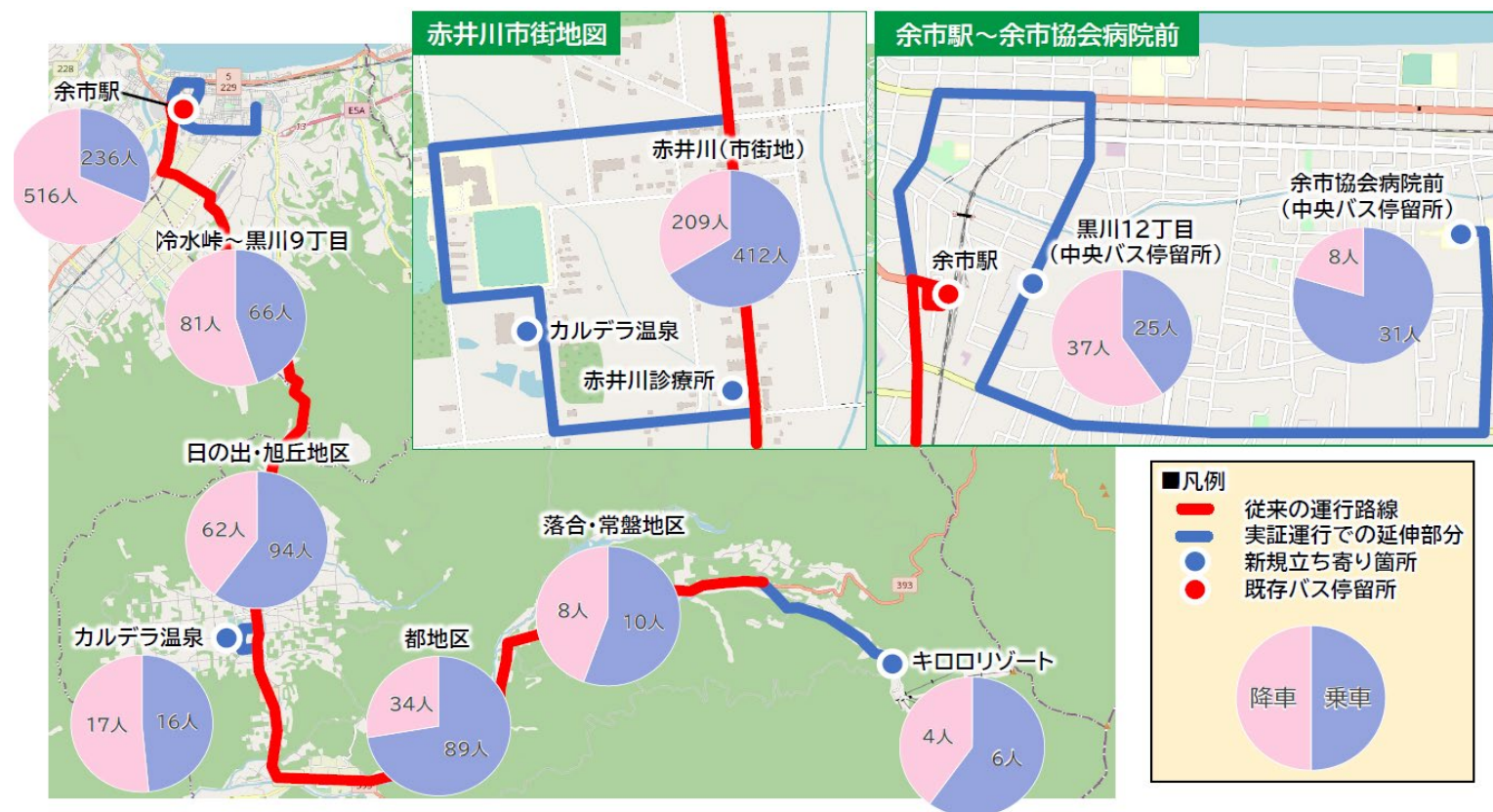


【赤井川村スクールバス車両】
スクールバス乗務員
運行受託者：赤井川ハイヤー

地域公共交通計画策定の取組

実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

実証運行によりわかったこと



※利用者アンケートの乗車及び降車場所から算出



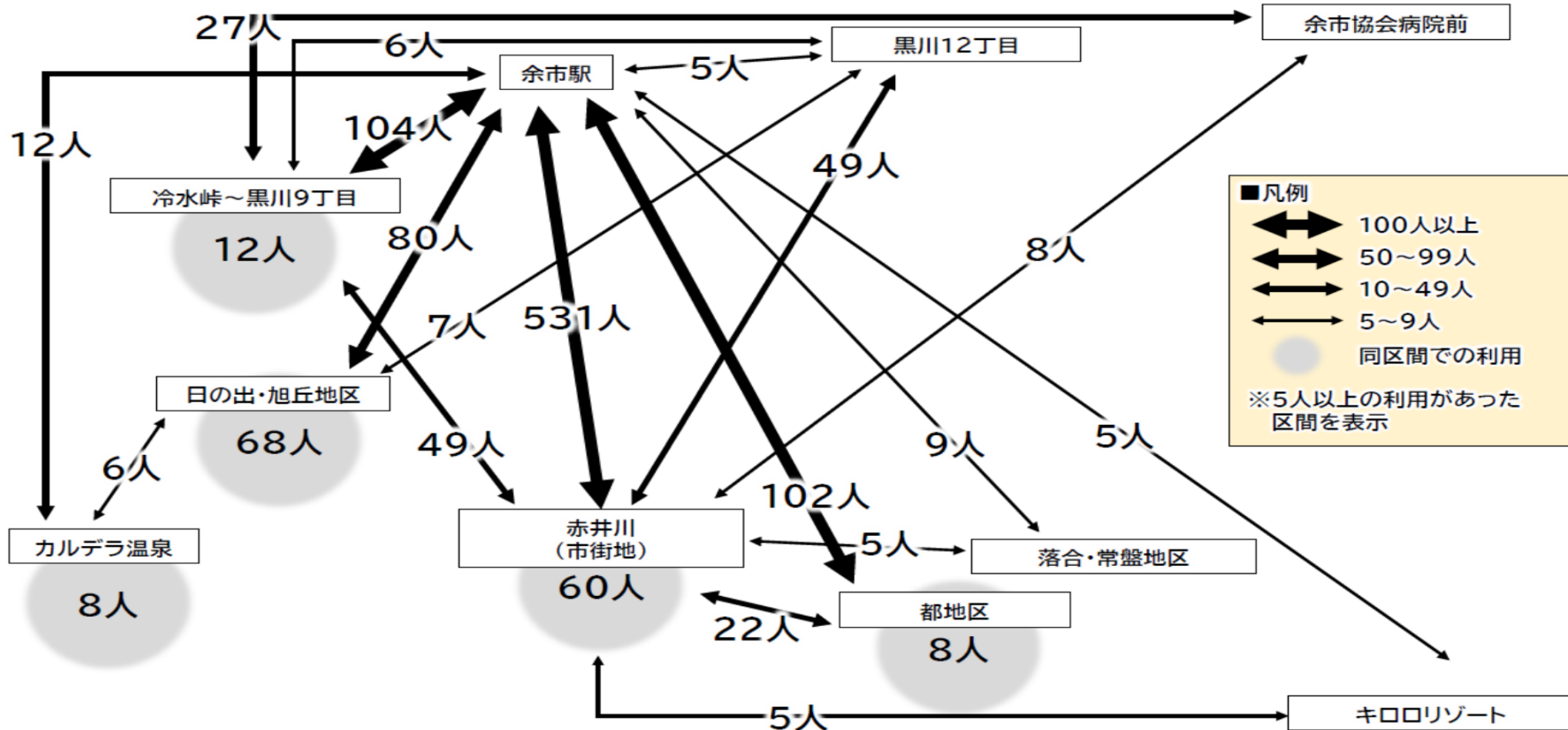
10/1実証運行の様子



実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

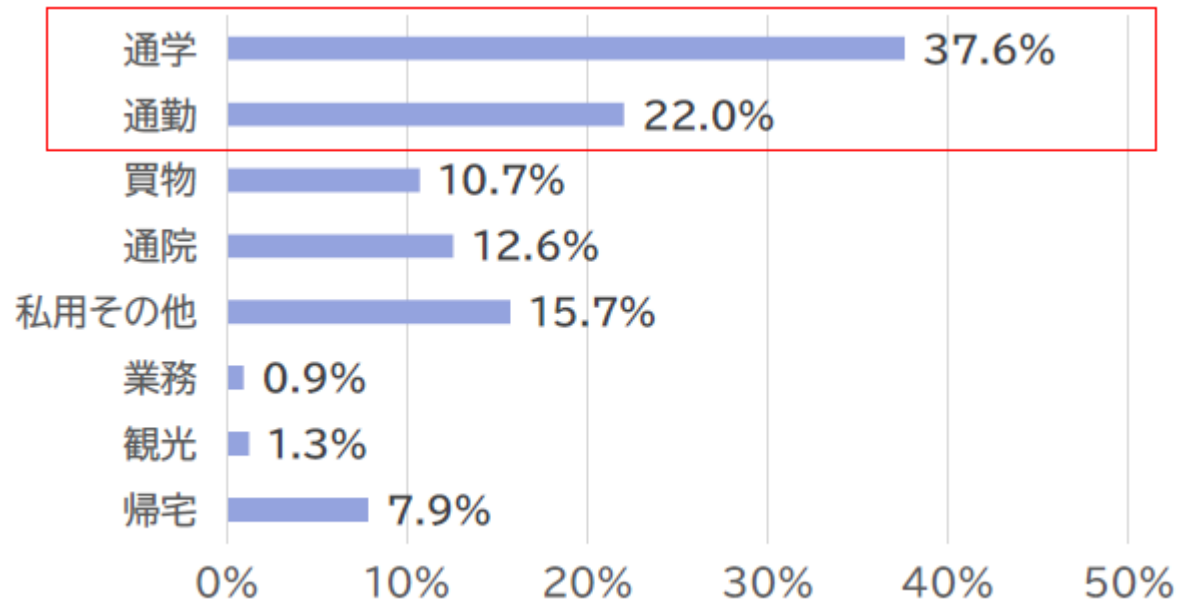
実証運行によりわかったこと

・赤井川村民だけでなく、余市町民の利用もみられる。



実証運行によりわかったこと

－利用目的－

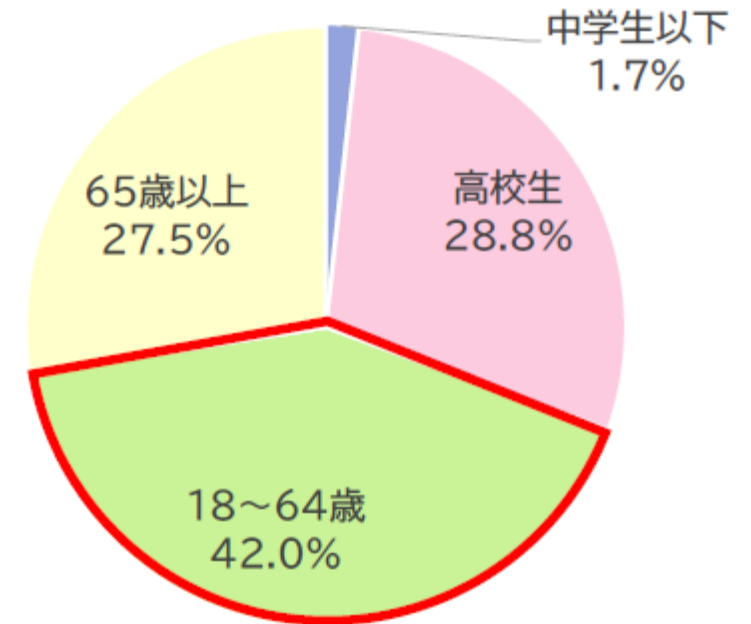


思い込み……

通学・通院・買い物の利用だろう……

→「通勤」利用が多い！

－利用者の年齢－



思い込み……

高校生と高齢者の利用だろう……

→実際は、「18歳～64歳」が多い！

むらバス運行に向けて

むらバス運行までの軌跡からお伝えしたいこと

1. ありたい姿を共有する

－ 目的と手段を明確に －

ありたい姿=利用されるバス運行によって、
暮らしやすさが向上する

むらバス運行に向けて

むらバス運行までの軌跡からお伝えしたいこと

2. バス事業者との情報共有・意見交換を徹底

－円滑な公共交通体制移行に向けて－

**乗務員管理、ダイヤ、突発的な事故対処、バス停管理
などなど**

むらバス運行に向けて

むらバス運行までの軌跡からお伝えしたいこと

3. 利用者全員が満足する

公共交通体制構築は不可能

－最大公約数を考えるしかない－

一人ひとりのリクエストに応えられない現実

むらバス運行に向けて

むらバス運行までの軌跡からお伝えしたいこと

4. バス年度やダイヤ改正時のタイミングで 考える視点

－ 4月1日は何かと”いずい”－

・・・と感じました。

むらバス運行までの軌跡からお伝えしたいこと

5. 証拠に基づく公共交通立案

－ 思い込みではなく、客観的データが重要－

むらバス運行は、小さな村の小さなEBPM

むらバス運行に向けて

2022.3.31
北海道中央バス
赤井川線
最終便セレモニー



むらバス運行に向けて

2022.4.1
むらバス運行開始



しごとの創出 + 地域内経済循環

むらバス運行に向けて



2022. 4. 1 むらバス運行

実証運行結果を踏まえ

◆小樽市内全高校がバス通学圏内に！

◆土日祝のバス運行を減便！
全日4往復（8便）から
土日祝は3往復（6便）

◆利用しやすいルートへ！
余市駅⇒コープさっぽろ余市店前
常 盤⇒キロロリゾート

むらバス運行に向けて

◆公共交通で村の未来をつなぐプロジェクト

The screenshot shows a crowdfunding campaign for a bus project in Akaiwa Village. The campaign is titled 'バスがなくなるなら、新たにバスを走らせる!人口1100人!小さな村の、大切な「公共交通」の存続を応援してください。' (If the bus disappears, let's run a new bus! Population 1100! Small village, please support the survival of 'public transport' that is important to us). The campaign has reached 100% of its goal of 5,000,000 yen, with 289 donors. The page includes a progress bar, a list of donors, and a video of a woman standing in front of a bus stop. The campaign is categorized under 'インフラ・交通・施設' (Infrastructure, Transport, Facilities) and '子ども・教育' (Children, Education). The campaign is managed by '北海道赤井川村 (ほっかいどう あかいがわむら)' (Hokkaido Akaiwa Village).

ふさとチョイス
プロジェクトをさがす
目標金額 11,933,144,850 円
ふるさと納税ガイド
プロジェクトをさがす
応援メッセージ
BCPとは
ふるさとチョイス
寄付する

TOP > 過去実績 > バスがなくなるなら、新たにバスを走らせる!人口1100人!小さな村の、大切な「公共交通」の存続を応援してください。

バスがなくなるなら、新たにバスを走らせる!人口1100人!小さな村の、大切な「公共交通」の存続を応援してください。

カテゴリ: まちづくり

達成! これからも、ここから
赤井川村には恵みがあります。これからも必死に戦い、大切な子供をなくさない。

寄付金額 5,001,300円
100%
目標金額: 5,000,000円

達成率 100%
支援人数 289人
終了まで 受付終了

北海道赤井川村 (ほっかいどう あかいがわむら)

このプロジェクトは終了しました

対応している決済方法

寄付募集期間: 2021年11月5日 ~ 2022年1月22日 (79日間)

タグ: インフラ・交通・施設 子ども・教育

SDGs: 11 住み続けられるまちづくりを

ふさとチョイスが活用したクラウドファンディング

このプロジェクトへの応援メッセージ

数回のご報告と赤井川村の足跡のため、ご寄付ありがとうございます。
2022年1月21日 14:07

バスの便益を応援します。
2022年1月17日 10:23

応援しています、頑張ってください!
2022年1月15日 23:38

村の未来、学生がバスで明日の夢

概要
北海道赤井川村
～公共交通で村の未来をつなぐ～
バスがなくなるなら、新たにバスを走らせる!
人口1100人!小さな村の、大切な「公共交通」の存続を応援してください。

新たな地域公共交通体制の構築に向け、地域公共交通バスを導入します。

赤井川村の地域課題（実情）を知っていただく機会

- ・ガバメント・クラウドファンディング
- ・企業版ふるさと納税

「共感」＝「関係人口」

寄付者との“つながり”を大切にする取り組み

■現在の運行状況（運賃）

運賃(現金でのお支払い時)

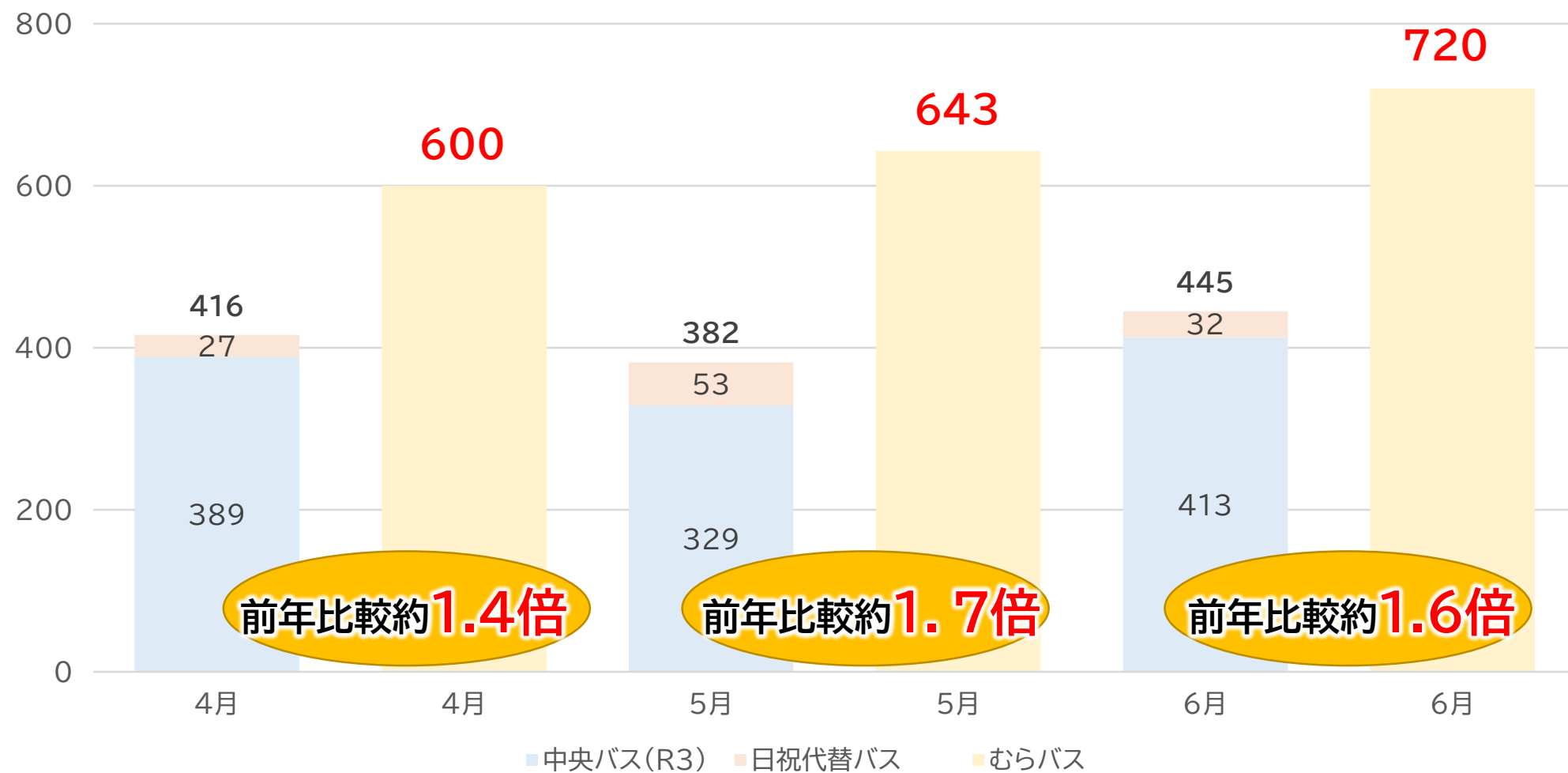
	一 般	高校生以下
赤井川村 ↔ 余市町	300円	200円
赤井川村内の移動	100円	100円
余市町内の移動	200円	200円

未就学児童
は無料

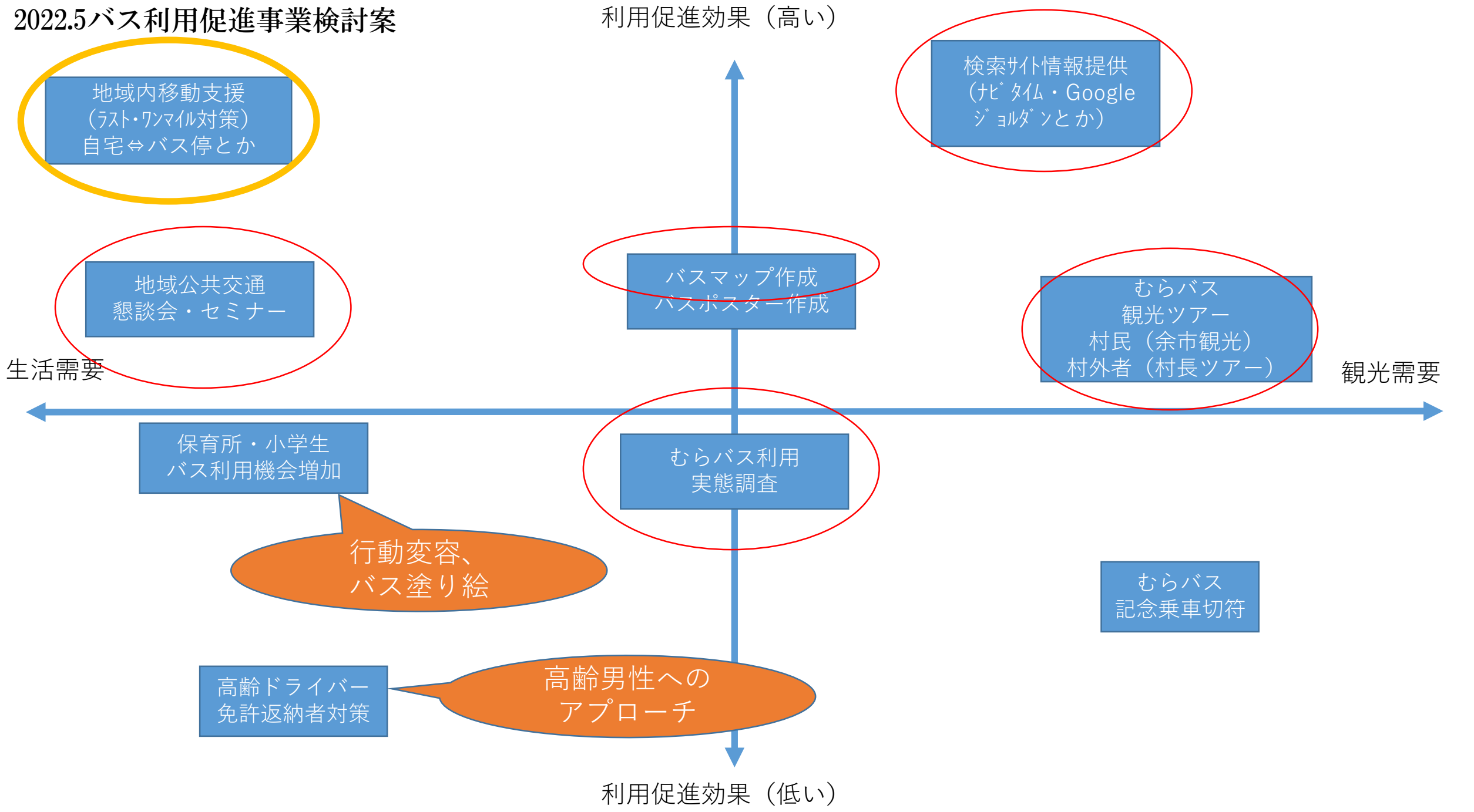
定期券購入額

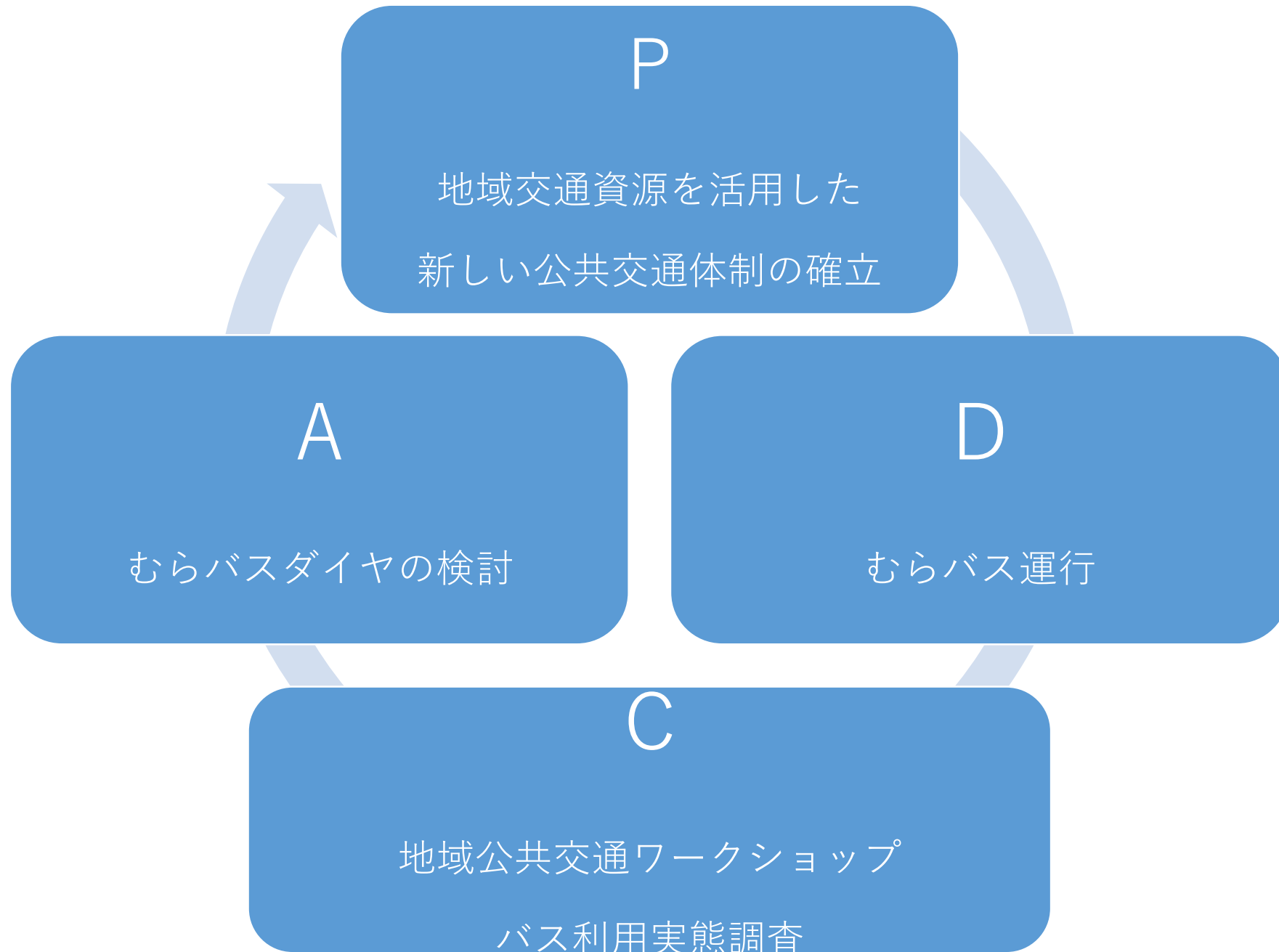
		赤井川村↔余市町 (片道)	赤井川村内 (往復)	余市町内 (往復)
学 生	1ヶ月	4,400円	学生定期券は 赤井川村と余市町間 の定期券のみの販売 です	
	3ヶ月	13,200円		
一 般	1ヶ月	6,600円	4,400円	8,800円
	3ヶ月	19,800円	13,200円	26,400円

■月別利用者数（4月～6月）



2022.5バス利用促進事業検討案





存廃協議からむらバス運行までをふり返り……

◆「ピンチ」を「チャンス」に。

路線バス廃止という「困難」から、

⇒地域でデザインする公共交通という「挑戦」へ。

⇒その挑戦から、「飛躍」へ

(しごとの創出＋利便性向上＋脱炭素(CO2削減)へ)





the most beautiful
villages
in japan
「日本で最も美しい村」連合

ぜひ、むらバスに
乗りに来てください。

赤井川村へのお越し
をお待ちしています。

え〜ぞ・しりべし【北海道後志総合振興局公式】を検索！

チャンネル登録者数56人